

1. 志賀ブロック (担当: 和邇あんしん長寿相談所、小松あんしん長寿相談所)

ブロック別基本目標

住み慣れた場所で高齢になっても安心して生活できる地域

地域課題からの重点的な取組	令和7年度評価	令和8年度事業・今後の方向性
<p>■ 閉じこもりによる負の連鎖から要介護状態になることを防止するため、地域の関係者や住民等と一緒に徒歩で行ける身近な集いの場づくりを検討します。</p>	<p>・小松学区では、サロン1か所が再開され、健康教育等の協力をを行い、継続の為に支援をした。また、第2層協議体にて、現状と課題を共有し、取り組みについて検討した。小松学区のサロンでは、福祉事業所の協力を得て、モデル的に送迎支援を開始した。</p>	<p>・小松学区のサロン休止中の自治会に対し、再開に向けた可能性を検討する。 ・送迎支援を開始したサロンへの支援を行う。 ・木戸学区のサロン送迎の可能性に向けて民児協や学区社協と検討する。</p>
<p>■ 担い手がいない状況の中、サロンを維持・活性化するために、参加者だけで運営するしくみやボランティアの養成等、新たな運営方法について検討します。</p>	<p>・和邇学区では、ACPの啓発を目的にほとんどのサロンを回り、周知啓発と現状把握を行った。担い手不足により、将来的に継続が難しくなるサロンがあるため、運営継続のための検討が必要。 ・地元大学による「健康いきいき教室」(小松学区8回シリーズ)が行われ、好評であった。</p>	<p>・小松学区のサロン休止中の自治会1か所に対し、サロン再開に向け関係機関と検討する。 ・和邇・木戸・小野学区のサロン回りをを行い、状況の確認と継続のための支援策を検討する。 ・現役世代など世代を超えた地域活動への参加について現状を把握する。退職シニア世代への地域活動参加について検討する。</p>
<p>■ 日常の買い物に困らないよう、個配や移動販売をしている商店の一覧を作成し配布するとともに、サロン開催時に合わせて移動販売を実施する等、商店や地区組織、住民等と連携して閉じこもり予防も兼ねた新たな買い物支援の方法を検討します。</p>	<p>・買い物支援のチラシを相談場面で活用し、情報提供を行った。また、移動販売についての相談があった時に、移動販売車の駐車場所を伝えた。</p>	<p>・個別相談時やサロン、事業の実施の際に、買い物支援のチラシを配布し、啓発する。</p>

2. 北部ブロック (担当: 堅田あんしん長寿相談所、真野あんしん長寿相談所)

ブロック別基本目標

みんなが、地域とつながりながら、自分らしくいきいきと暮らすことができる地域

地域課題からの重点的な取組	令和7年度評価	令和8年度事業・今後の方向性
<p>■ 運動機能の低下による閉じこもり傾向の悪化を防止するため、民生委員や地区組織と連携して、運動機能の向上のための出前講座の実施や自宅でできる体操等の情報提供を行います。</p>	<p>・出前講座は29回、百歳体操は2件の依頼があり、実施、支援している。 ・希望者やサロン参加者に働きかけ、宇宙体操のDVDを配布し、自宅で実施できる運動を啓発した。</p>	<p>・依頼がないサロンの課題や実態把握を行う。 ・R7年度に立ち上がった体操教室の継続支援を行う。 ・運動機能低下を感じている市民に、宇宙体操DVDを活用し、介護予防に努める。</p>
<p>■ 閉じこもりを予防するため民生委員や住民と連携して、身近な地域での集いの場づくりに取り組みます。</p>	<p>・北部ブロックサロン交流会を市社協と協力しながら実施できた。また真野学区で介護予防サポーター養成講座を実施し、集える場や情報交換を作った。新規に立ち上がったサロンに対し、状況把握を行い、相談しやすい関係づくりに努めた。</p>	<p>・サロンが無い地域の状況把握に努める。 ・居場所づくりのきっかけとして、福祉委員・学区社協・民生委員・住民に働きかけ、介護予防教室を提案していく。また、サロンが継続できるよう、実施状況を確認しながら支援していく。</p>
<p>■ 関係機関と連携して、孤立した高齢者や身寄りのない高齢者が、入退院や転居等に困らないような体制を検討します。</p>	<p>・対象ケースについては、医療機関や居住支援をしている法人等関係機関と連携し、対応できている。 ・堅田、真野学区でのエリア会議や、仰木の里見守りネットワーク会議で、住民同士の見守りや早期相談の必要性についての課題が抽出ができた。</p>	<p>・引き続き課題の把握を行うとともに、関係機関や地域と連携し、共有を行う。地域住民同士の見守り意識が高まり、また早期相談につながるよう、啓発していく。</p>
<p>■ 8050問題、高齢者同士の介護を担う世帯に対して、民生委員や地域との関係者との連携により、早期発見、早期対応ができるように、見守り体制構築、連携の強化に取り組んでいます。</p>	<p>・地域ケア会議や関係機関との会議を開催し支援体制構築に努めた。真野北・仰木の里学区で見守り会議(6・11・12・1月)に参加し、見守り体制強化に努めた。民生児童委員の情報誌に、ヤングケアラーに関する記事を寄稿し、8050問題の意識を高めた。</p>	<p>・地域ケア会議やカンファレンス等を活用して、地域や関係機関との連携を強化し、見守り体制の構築につなげる。</p>

3. 中北部ブロック（担当：比叡あんしん長寿相談所、比叡第二あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

高齢になっても助け合いながら安心して暮らせる地域

地域課題からの重点的な取組	令和7年度評価	令和8年度事業・今後の方向性
<p>■ あんしん長寿相談所の役割を地区組織や高齢者が関わりの深い医院や薬局、金融機関、商業施設をはじめ、子育て機関等に出向き広く周知することにより、支援を必要とする高齢者や家族が早期にあんしん長寿相談所につながる体制づくりを行います。また、同時に介護予防についての情報提供を行います。</p>	<p>・あんしん案内、だよりを医療機関、薬局、銀行、郵便局、スーパー、コンビニ、新聞社、交番に配布し周知。 ・福祉委員等を対象に介護保険制度やあんしん長寿相談所の説明を行った。 ・いきいき講座7回、セラピスト講座3回、介護予防講座16回実施。唐崎学区社協のサロンを活用し介護予防を啓発した。</p>	<p>・引き続き関係機関に周知する。 ・自治会の集会や学区社協や事業所が行う集まりなどに参加し、顔の見える関係を目指す。 ・在宅療養を支える専門職と連携し、介護予防についての講座を実施する。（5件/年）</p>
<p>■ 閉じこもりによる運動機能や社会機能の低下を予防するため、関係者と連携しサロンの活性化や新たな集いの場づくりに取り組みます。また、足腰の痛み等で外出しづらい方のために地域の団体と連携して送迎等の社会資源の開発について検討します。</p>	<p>・6つのサロンにて介護予防の啓発を行った。 ・令和7年度に立ち上がった「昭和食堂ひよだい」に参加し、相談・講話を実施（8回/年）。 ・日吉台学区のサロン送迎が6月から開始された。実施状況を第二層協議体で振り返り、地域住民と意見交換し、軌道に乗り始めている。</p>	<p>・集いの場の活性化に向けた支援を行う。 ・サロン送迎の実施拡大に受けた検討を行う。 ・「老いも若きも」を活用した居場所づくりの検討。 ・「昭和食堂ひよだい」の住民主体化への支援 ・地域で健康教室・健康相談を実施し、地域の介護予防活動を支援する。（2か所/年）</p>
<p>■ 介護を担う家族の問題をチームで支援できるよう、高齢者分野以外の関係機関と意見交換を行い、連携を強化します。</p>	<p>・「あんすこ会議」（比叡あんしん長寿相談所、比叡第二あんしん長寿相談所、比叡すこやか相談所、市社会福祉協議会）が集まり、定期的に情報共有している。 ・重層的支援会議やケース会議を通じて、障害や精神疾患を持つ方についての対応を協議。</p>	<p>・あんしん長寿相談所内で、情報・課題の把握をした上で、関係機関とのケース会議を実施する。 ・毎月のあんすこ会議を継続し、意見交換・連携を行う。</p>

4. 中部ブロック（担当：中あんしん長寿相談所、中第二あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

高齢者が人とつながり、困った時に気軽に相談しあえる地域

地域課題からの重点的な取組	令和7年度評価	令和8年度事業・今後の方向性
<p>■ あんしん長寿相談所の認知度をあげる取組として、高齢者が立ち寄る場所やマンション等、新たな「あんしん長寿相談所だより」の配布先の開拓を行います。また、自治会未加入者にも情報が届くようにします。</p>	<p>・自治会回覧や支所に設置するほか、各医療機関やコンビニ、ドラッグストア、郵便局にあんしんだよりを設置したことで、周知を図ることができた。 ・山中比叡平では、まちづくり協議会や住民団体で作るNPO法人との連携により、新規の相談者が増えた。</p>	<p>・自治会未加入者へも情報が届くよう、引き続き各医療機関やコンビニエンスストア、ドラッグストア、郵便局等にあんしん長寿相談所だよりを設置する。 ・健康講座の機会などを活用し周知に努める。</p>
<p>■ 運動機能が低下し、転倒リスクの高い高齢者が多いため、各サロンにおいて、転倒・骨折予防のための講座を開催し下肢筋力の強化に力を入れます。また、身近な集会場等で、介護予防体操（ハツラツ宇宙体操・いきいき百歳体操）が行える場所が増えるよう民生委員をはじめとした関係者で検討します。</p>	<p>・いきいき百歳体操の立上げ支長等学区）を実施できた。 ・新たにマンション自治会から出前講座の依頼があった。活動が少ないサロンに出向き、活動状況の確認と活動支援のための情報提供を行なった。</p>	<p>・講座の相談時に、フレイル予防の案内を含め提案する。 ・出前講座の利用が無いサロンへの案内に加え、あんしん長寿相談所だよりに講座案内を掲載し、周知をはかる。</p>
<p>■ 日常生活に支障の出ている高齢者を早期に見出し、介入し、重度化予防を図ることを目指し、自治会関係者や地域住民、民生委員等と連携して見守り体制について協議します。</p>	<p>・地域の見守り強化を目指し、地域ケア会議や地域エリア会議を開催した。顔の見える関係づくりを目的に民生委員と居宅支援事業所ケアマネジャーの交流会を実施した所、連携をとりやすくなったと好評だったので、2回目を開催する予定である。</p>	<p>・まちづくり協議会や自治連合会に協力依頼し、自治会単位での見守り体制や気になる高齢者の早期相談につながるような取組を検討する。 ・引き続き地域ケア会議を通じて、地域や関係と見守り体制づくりについて協議する。</p>
<p>■ 今までに関わりの無かったマンションの住民組織に働きかけ、生活実態や困り事を把握し、身近な場所での集いの場作りを行い、地域の助け合いの輪を広げます。</p>	<p>・管理組合の有無により、マンションごとに対応が異なることから、まずは、管理組合長宛にあんしん長寿相談所だよりを配布し、周知と連携を働きかけた。</p>	<p>マンションの立地や特性から優先順位を検討し、マンション住民への支援の必要性や方法について、検討する。</p>

5. 中南部ブロック（担当：膳所あんしん長寿相談所、晴嵐あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

みんながつながって互いに助けあえる地域

地域課題からの重点的な取組	令和7年度評価	令和8年度事業・今後の方向性
<p>■ 支援が必要な高齢者や家族が、早期にあんしん長寿相談所につながるよう、地域の診療所や関係機関に出向き、連携を深めます。また、高齢者の転居が多いマンションのモデルルームや不動産業者にもあんしん長寿相談所案内等を配布し、あんしん長寿相談所の役割を周知します。</p>	<p>・あんしんだよりの配布先を8か所、開拓できた。さらに、賃貸マンション不動産5社に高齢者の住まい探しの実態を聞き取り調査し、連携がとれる関係性を築いた。高齢者の多い団地の管理センターと連携し、高齢者の支援を行った。</p>	<p>・診療所、薬局、郵便局、金融機関等の関係機関にあんしん案内、あんしんだよりの配布を継続する。 ・高齢者が多いマンションの管理人や管理センターにあんしん長寿相談所の役割を周知し、連携できる関係性を築き、高齢者の支援を行っていく。</p>
<p>■ 地域の集いの場や介護予防の教室を希望する人が多いことから、地区組織や住民と連携して、サロンの活性化や集いの場の立ち上げを支援します。</p>	<p>・サロンの再開・新規を含めて7か所の立ち上げ支援を実施した。また、地域住民が利用する平和堂石山店とスポック富士見で介護予防講座・出張相談を実施し、多くの市民の参加があった。</p>	<p>・サロンや地域の集まりに出向き、地域の声・ニーズを探り、サロンの活性化や集いの場の立ち上げを支援していく。また、平和堂石山・エポック富士見の講座を定例化し実施していく。</p>
<p>■ 新たにまちづくり協議会と連携し、地域の現状について共有するとともに、地域のつながりづくりについて検討します。</p>	<p>・晴嵐学区のまちづくり協議会と連携し、市民講座を開催した。また、まちづくり協議会所属の団体と協働し、あんしん長寿相談所の役割を周知する機会や講座を開催する機会を設定した。</p>	<p>・晴嵐まちづくり協議会との連携、活動の継続。新たに平野学区まちづくり協議会の会合に参加し、協働できる活動について検討する。</p>
<p>■ 高齢者を取り巻く家族全体にも視野を広げ、支援が必要な場合には適切な支援関係機関と連携します。また、介護者の離職防止のための相談・情報提供を行います。</p>	<p>・地域講座の中で市民啓発講座を実施したり、あんしんだよりに記事を掲載する等、ACPの周知を行った。また、企業の職員向けに仕事と介護の両立についての講座を実施した。</p>	<p>・介護離職防止については、相談窓口の1つとなる様、情報提供を続けていく。ACPIについては、引き続き啓発、周知に努める。</p>

6. 南部ブロック（担当：南あんしん長寿相談所、南第二あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

支え合っていつまでも安心して暮らし続けられる地域

地域課題からの重点的な取組	令和7年度評価	令和8年度事業・今後の方向性
<p>■ 民生委員や地域の関係者と低栄養や咀嚼機能の低下がみられる高齢者が多い現状を共有し、口腔機能向上のための介護予防講座を開催する機会を増やします。また、閉じこもり傾向にある人に介護予防や相談窓口等の必要な情報を伝える手段を検討します。</p>	<p>・低栄養咀嚼機能低下予防について民生委員、自治会役員、健康推進員、サロンに向け、チラシを配布し啓発した結果、出張講座の依頼が増え、9回実施した。 ・あんしんだよりの新規配布先が4か所（理美容室・老人会、新聞配達、牛乳配達営業所）増えた。</p>	<p>・低栄養咀嚼機能低下予防の必要性について、地域の団体に説明、提案し継続支援する。（5回実施） ・あんしんだよりの新規配布先をさらに増やす。</p>
<p>■ 閉じこもり傾向にある人の更なる機能低下やうつ傾向を予防するため、商店街と連携してサロンで移動販売を実施する等、高齢者が外出し地域と交流しやすい方法を検討します。</p>	<p>・平和堂移動販売とサロン開催日を調整したところ、地域の交流の場になりつつある。 ・閉じこもり予防についてあんしんだよりで啓発すると共に、出前講座を開催する等、サロンの活動支援を実施。</p>	<p>・閉じこもり予防としての居場所となるよう平和堂移動販売停留所について検討する。 ・既存サロンの継続支援に加え、新規立ち上げ支援について周知啓発していく。</p>
<p>■ 8050問題について、早期からあんしん長寿相談所とすこやか相談所等関係機関と連携し、同行訪問するなど対応を行います。</p>	<p>・南すこやか相談所と情報交換会（年12回）や同行訪問に加え、定期的（年4回）に支援方針の確認などの機会を持ち、連携に努めた。</p>	<p>・引き続きすこやか相談所や保健所、生活福祉課、障害福祉課など多機関と連携し、専門性を発揮した支援を継続する。</p>
<p>■ 認知症等支援の必要な高齢者や家族が早期にあんしん長寿相談所につながるために、医療機関や関係機関とのネットワークを強化します。</p>	<p>・認知症カフェへの参加、小学校、平和堂職員対象の認知症サポーター養成講座を実施し、ネットワークの構築を図った。</p>	<p>・認知症予防について、新たな情報提供の場（子育て世代等）を増やす。また、医療機関や関係機関とのネットワークの強化を図る。</p>

7. 東部ブロック（担当：瀬田あんしん長寿相談所、瀬田第二、青山あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

見守り支えあい高齢者になっても安心して生活できる地域

地域課題からの重点的な取組	令和7年度評価	令和8年度事業・今後の方向性
<p>■ 介護予防のため「フレイル対策」を含む内容の出前講座や啓発活動を支所や商業施設で実施し、IADL（手段的自立度）が低下している高齢者の早期把握に努めます。</p>	<p>・「口腔フレイル予防」「出前講座」をブロック内で42回実施した。参加者は元気な方が多く、健康に関する相談ニーズは多いと思われる。フォレオー里山の秋福祭りにてIADL調査を実施したが、高齢者の回答数が少なく分析に至らなかった。</p>	<p>・「フレイル対策」「出前講座」等の講座や秋福祭を通して、IADLの周知および早期発見に努める。 ・IADLの調査については、調査方法や内容、実施場所を再検討する。</p>
<p>■ 高齢者の居場所の維持及び活動場所を増やすため、自治会や民生委員、商業施設等と相談し活動場所の確保・調整を行います。</p>	<p>・情報収集の結果、後継者がいないというのが既存サロンの共通課題であると判明。新たな居場所として、4か所の立ち上げ支援（サロン、認知症カフェ）を実施した。また、京都信用金庫瀬田支店と協働し、通いの場創出のきっかけづくりや青山のサロンの移送サービス支援を行った。</p>	<p>・サロン等、居場所の運営・維持の支援を行い、地域のニーズを把握するとともに、要望に応じた居場所の維持・立ち上げ等の支援を行う。</p>
<p>■ 男性介護者には介護に役立つリーフレット等を配布します。また、男性介護者に対する理解を図るため、介護職や介護支援事業所等への啓発を行い連携を強化します。</p>	<p>・出前講座等で啓発資料を配布した。当初は、エリア会議で取り扱うテーマにと計画していたが、喫緊の課題である「新しい認知症観」に変更したため、資料での情報提供に変更した。</p>	<p>・サロンや在宅医療連携会議の中で、介護者支援や男性介護者支援について情報提供・啓発を行い、支援や予防に繋げる。 ・エリア会議での活動は見直し、支援方法について再検討する。</p>
<p>■ 東部ブロックでは高齢者虐待対応件数が多く、特に男性介護者による虐待が多いため、家族介護者（特に男性）への支援が行き届き、負担軽減につながる取組を行います。</p>	<p>・あんしんだよりに家族介護について掲載し、周知啓発を行った。高齢者虐待が疑われるケースについては、必要な支援について検討し、介護者の負担軽減につなげる取組を行った。</p>	<p>・様々な機会を活用し、関係機関や地域とともにネットワークを強化する。</p>
<p>■ 認知症高齢者やその家族の生活を支えるため、関係機関や地域とともにネットワークを強化します。</p>	<p>・MCIの周知や認知症カフェの案内等の啓発を行った。秋福祭への認知症カフェからの出店をサポートし、関係機関とつなげる事が出来た。認知症をテーマにしたエリア会議を開催し、地域課題を共有する。</p>	<p>・様々な機会を活用し、関係機関や地域とともにネットワークを強化する。</p>